滋賀県看護協会保健師職能委員会調査研究報告書

新型コロナウイルス感染症のよる保健活動への影響と自治体保健師キャリアラダーの活用に関する実態調査

2020 年 3 月

新型コロナウイルス感染症による保健活動への影響と自治体保健師キャリアラダーの活用に関する実態調査

明石圭子 1)　足立茜 2)　有村祐亮 3)　飯田真理恵 4)　小川薫子 5)
高木久美子 6)　西村尚子 7)　平松祐子 8)　仲野美根子 9)
1）長浜市役所２）長浜保健所３）草津保健所４）大津市保健所５）草津市役所
６）高島保健所７）甲賀保健所８）豊郷町役場９）近江八幡市役所

Ⅰ調査概要

調査の目的

本調査は、保健師及び保健活動の資質向上を目的として、滋賀県内自治体等に勤務する保健師に実施した個別調査である。

現在、大きな社会問題ともなっている新型コロナウイルス感染症による保健師活動への影響と、これらの健康課題に対応する保健師の力量形成を助けるキャリアラダーに焦点をあて、現状と今後の課題を分析したものである。

調査対象

滋賀県内自治体 19 市町及び事業所 3 カ所に所属する保健師

調査方法

調査票の郵送または手交及び電子媒体による配布・回収

倫理的配慮

調査内容は全て統計的に処理し、個人名及び所属名は公表しないこととした

調査実施期間

令和 2 年 11 月 9 日～11 月 30 日

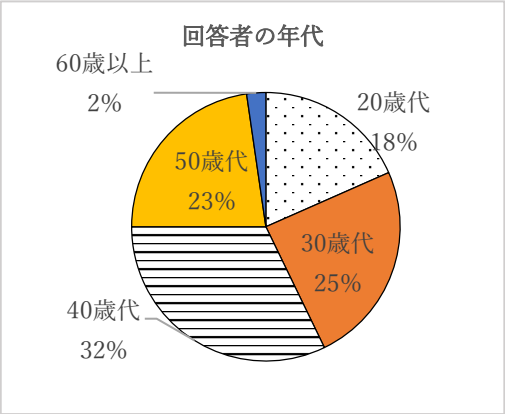
回収状況

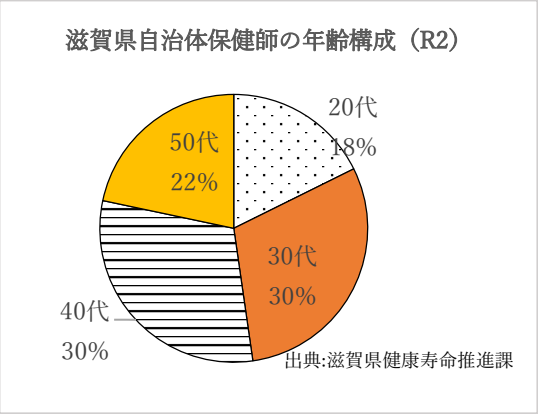
配布数　　482
有効回収数　348　（有効回収率　72.2%）

Ⅱ 調査結果

1. 回答者属性

40 歳代の回答数が最多で、次いで 30 歳代、50 歳代と続くが、これは県内の保健師年齢構成割合と相関していた。また、回答者の 46.8%が看護協会非会員であった。

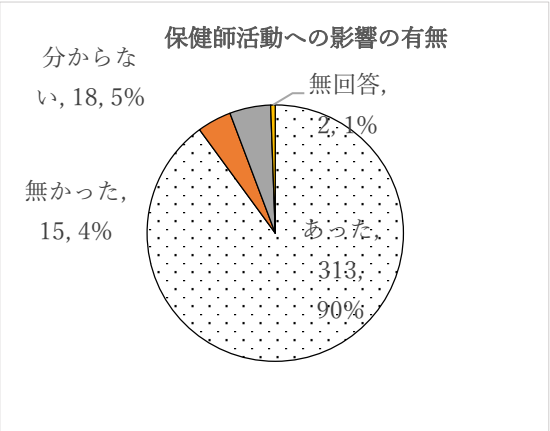


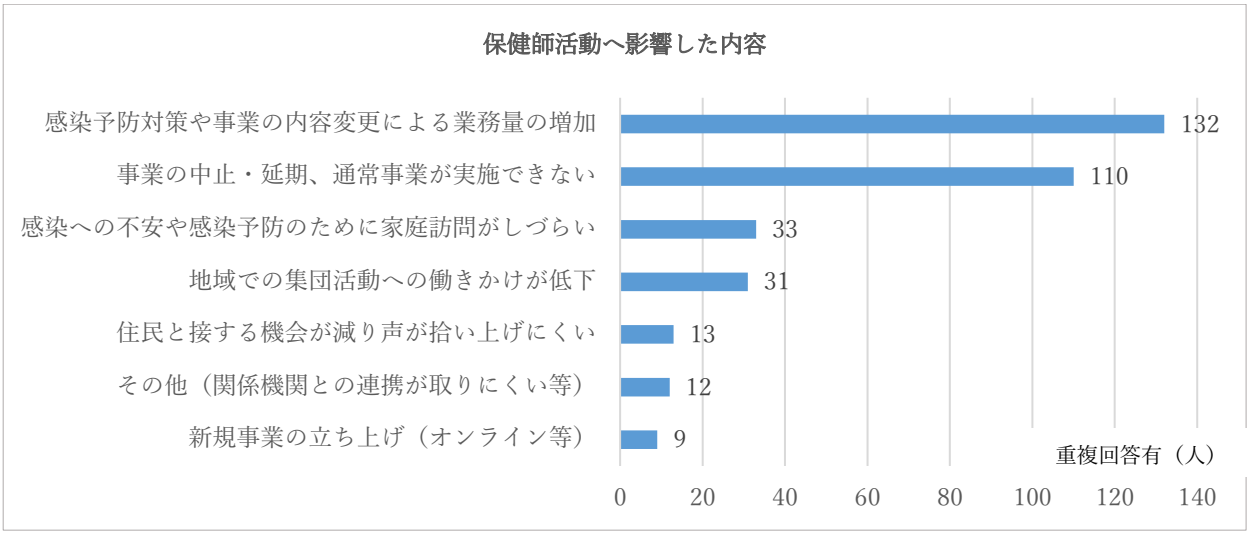


2．新型コロナウイルス感染症が保健師活動に及ぼした影響

1）保健師活動への影響の有無と内容

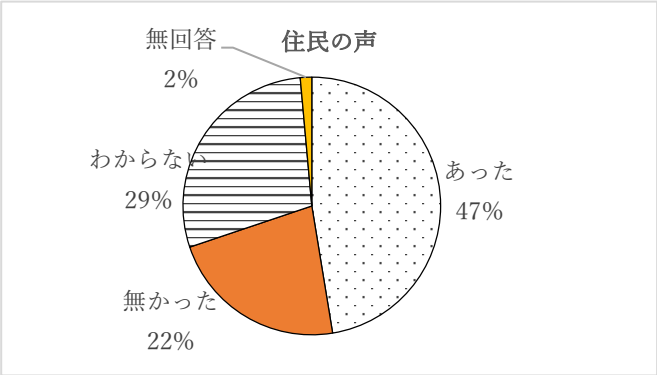
約 90%が「影響があった」と回答した。影響の内容（自由回答）を 7 つのカテゴリーに分類し集計した結果､「感染予防対策や事業の内容変更による業務量の増加」が最も多く 132 人（38.8%）を占め、次いで「事業の中止・延期・通常事業が実施できない」が 110 人（32.4%）であった。





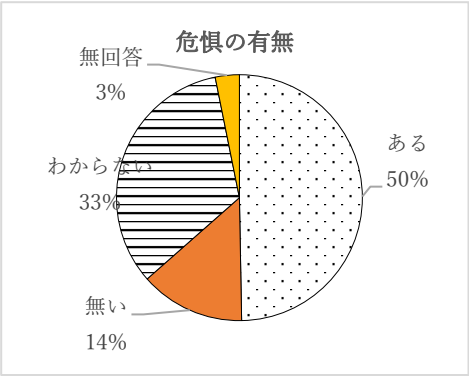
2）保健活動が変わったことに対する住民の声

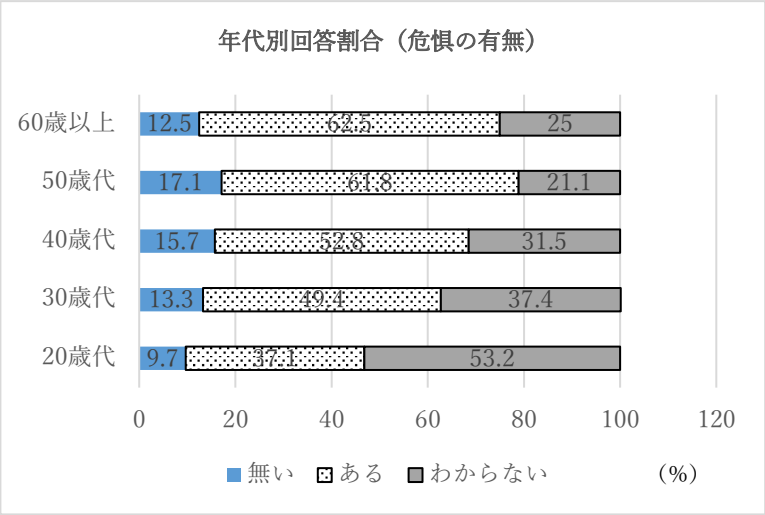
住民の声があったと 165 人（47.4%）が回答した一方、無かった（78 人、22.4%）、わからない（100 人、28.7%）の回答も多かった。
住民の声の内容（自由回答）を 6 つのカテゴリーに分類して集計した結果、「業務に対する問い合わせ」が多く（41 人、31.1%）、次いで「コロナに対する不安」（35 人、26.5%）が多かった。



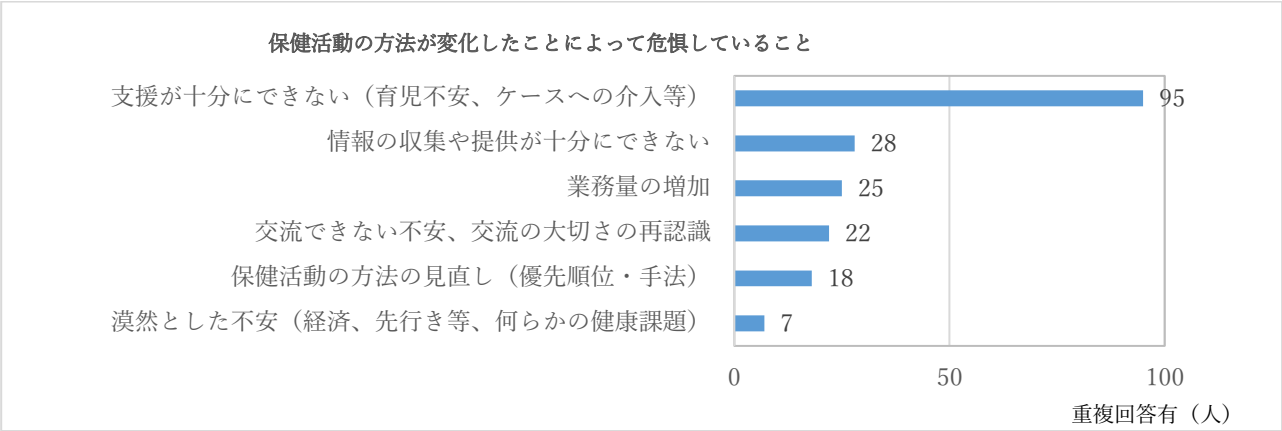
3）保健活動の方法が変化したことによって危惧していること

「危惧がある」と回答したものが 173 人（49.7%）と半数を占めたが、「わからない」と回答したものも 116 人（33.3%）と多かった。年齢別でみると、20 代では「危惧がある」と回答したものが 37.1%で、わからないと回答したものが 53.2%であったが、40 代では危惧があると回答したものが 52.8%、「わからない」と回答したものが 31.5%となり、危惧があるものとわからないものの回答割合が 20 代と逆転する。





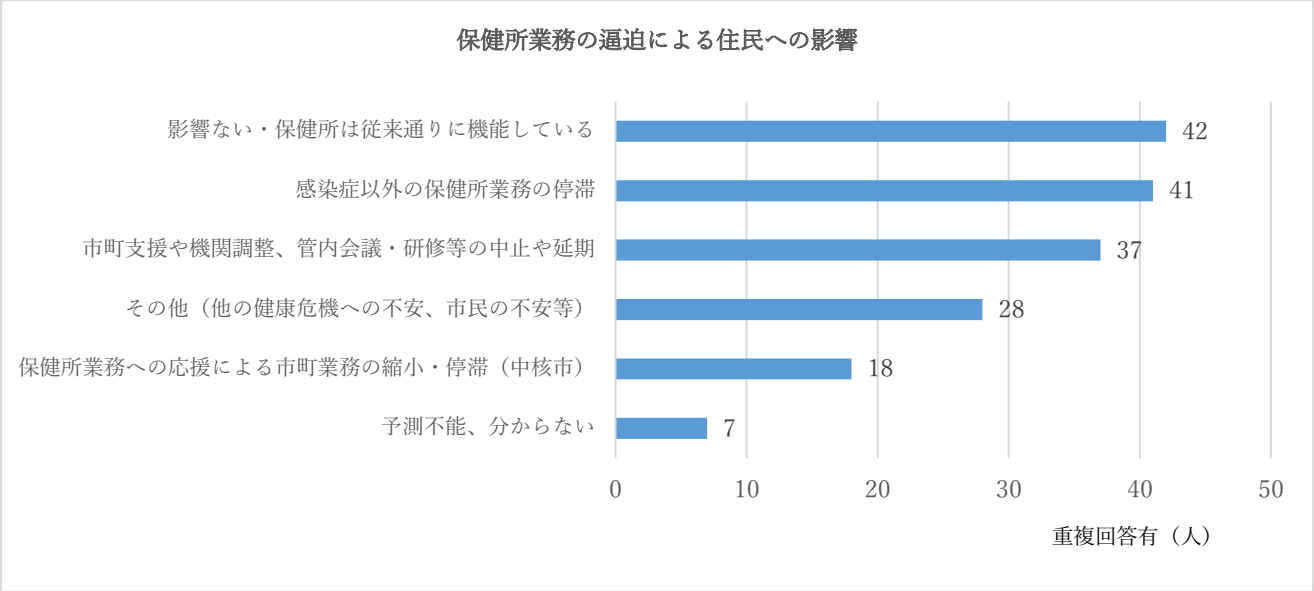
危惧の内容（自由回答）については、6 つのカテゴリーに分類し集計した。「支援が十分にできない」が最も多く 95 人（48.7%）、特に市町の回答を読むと、健診等の中止によって本人に支援ニーズがないケースへの介入が困難になったことなどが挙げられていた。また、子育て中の母親同士の交流の場や、介護予防の取り組みとして高齢者保健の領域で進めてきた社会参加の場の減少等の集団支援活動ができないことへの危惧の記述があった。



4）保健所業務の逼迫による市町や住民への影響

この設問は自由回答であったため、回答を 6 つのカテゴリーに分類し集計した。保健所は、陽性者の健康観察や調査等で多忙を極めたが、調査時点においては「影響はない・保健所は従来通りに機能している」という回答が 42 人（24.3 %）と最も多かった。

ほぼ同数で、「感染症以外の保健所業務の停滞(精神・難病・専門相談等)」（41 人、23.7%）という回答も多かった。次いで多かったのは「市町支援や市町間又は医療機関調整、管内保健師育成等の会議や研修会、情報共有機会の中止や延期」で、34 人（21.4%）であった。

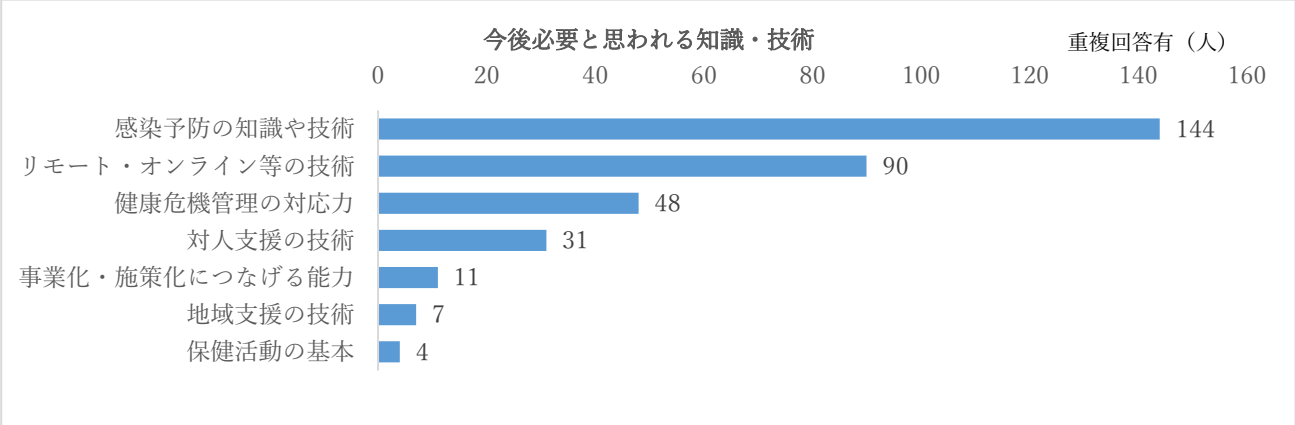


5）コロナ禍の保健師活動のために、今後必要と思われる知識・技術

この設問は自由回答であったため、回答を 6 つのカテゴリーに分類し集計した。

「感染症予防の知識・技術」が最も多く 144 人（43.0%）、次いで「健康危機管理の対応能力」が 90 人(26.7%)、「リモート・オンライン等の技術」が 48 人(14.3%)、対人支援の技術が 31 人（9.3%）であった。

対人支援の技術については、対面による支援ができにくい中、電話やリモートによる支援技術を求める内容の記載が多かった。また、事業化・施策化につなげる能力や地域支援の技術についても、コロナ禍における新たな手法の習得が必要という内容の記載であった。



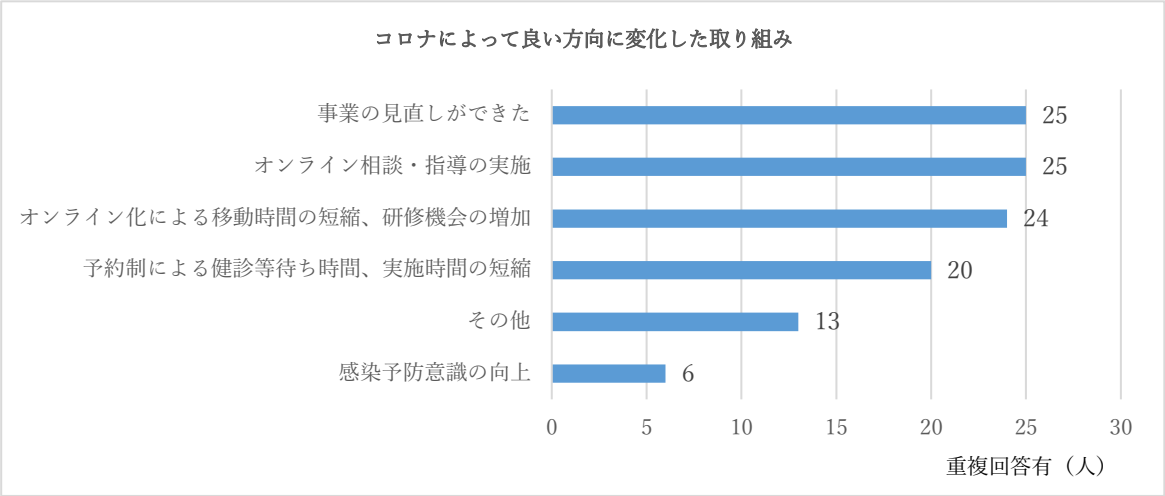
6）コロナウイルス感染症によって、良い方向に変化した取り組み

わからないと回答した人が 173 人（49.7%）と多く、あると答えた人は 116 人（33.3%）であった。良い取り組みの内容（自由回答）を 6 つのカテゴリーに分類し集計した。「オンライン・リモート相談、指導の実施」（25 人、22.1%）「事業の見直しができた」（25 人、22.1）が最も多く、次に「オンライン

会議、研修になり、移動時間の短縮・研修機会の増加」（24 人、21.2%）であった。

相談・指導や会議についての自由記載では、オンラインの活用により、相談や指導の手法の選択肢が増えただけではなく、研修や会議出席に要する移動時間の短縮や経費削減の効果もあったことがうかがえた。

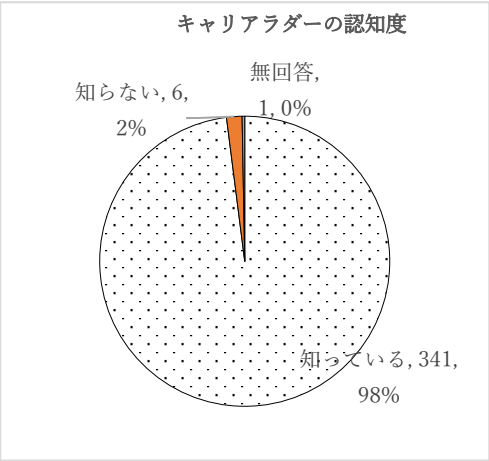
その他、「衛生部門以外の職員も感染症対策を考えるようになった」「ひきこもりなど、来所相談が難しいケースがリモートで相談対応できるようになった」という事例の回答もあった。

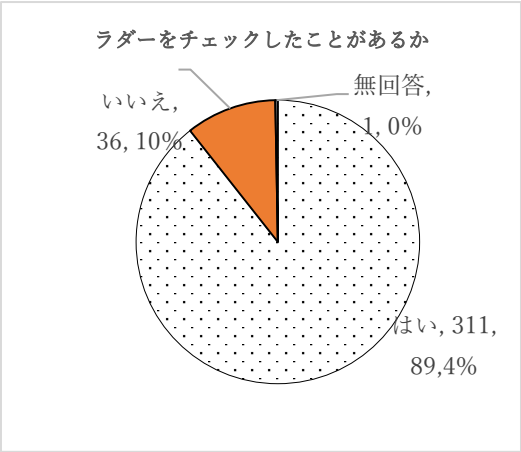


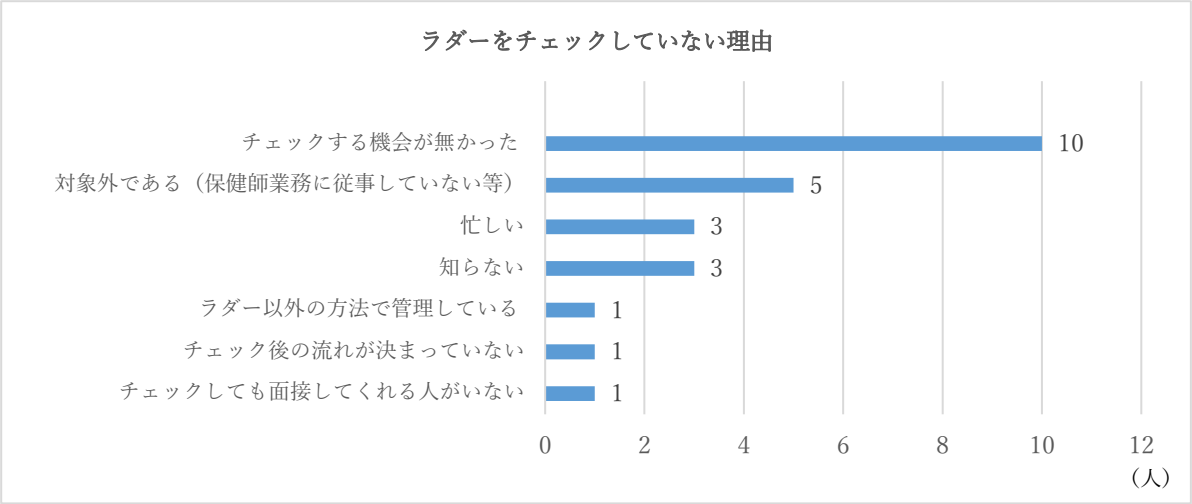
2．自治体保健師キャリアラダーの活用

1）保健師キャリアラダーの認知度とチェック経験の有無

98.0%が「知っている」と回答し、チェックしたことがある人は 89.4%であった。
チェックしていない理由（自由回答）を 7 つのカテゴリーに分類して集計した結果、所属に体制がない、非常勤であるなどを含む「チェックする機会が無かった」が 10 人と最も多かった。

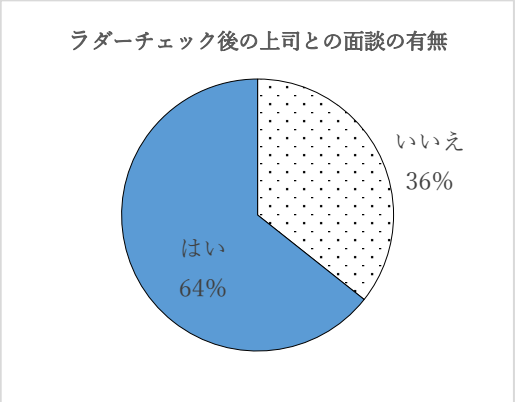






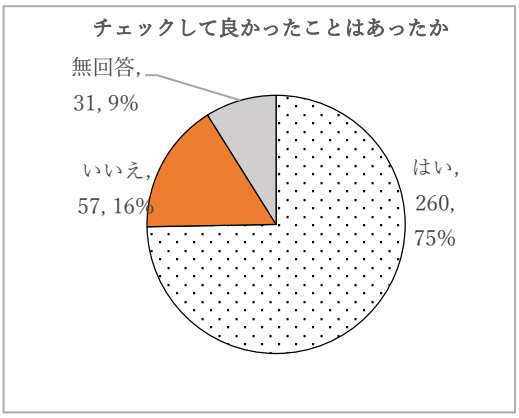
2）ラダーをチェックしたあとの上司との面談の有無

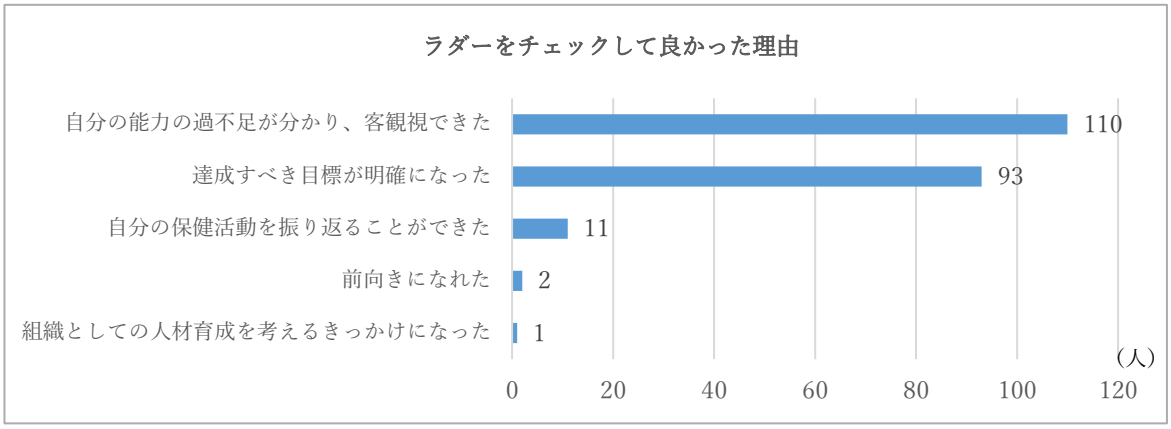
ラダーをチェックした後の面談は 36%の保健師が受けていなかった。



3）ラダーをチェックしてみて良かったことの有無とその理由

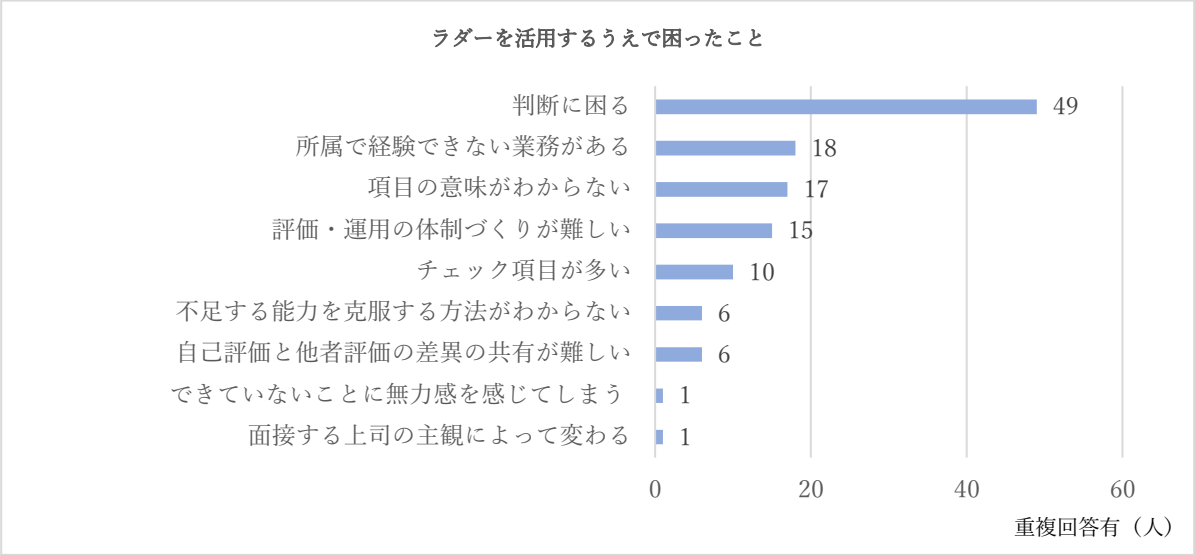
「はい」と回答した 260 人（74.7%）がチェックして良かったことがあったと感じており、57 人（16.4%）が「いいえ」(良かったことが無かった）と答えている。また、良かった内容について(自由回答)を 5 つのカテゴリーに分類し集計したところ、「自分の能力の過不足が分かり、客観視できた」が最も多く 110 人（50.1%)、次に「達成すべき目標が明確になった」が 93 人(42.9%)であった。





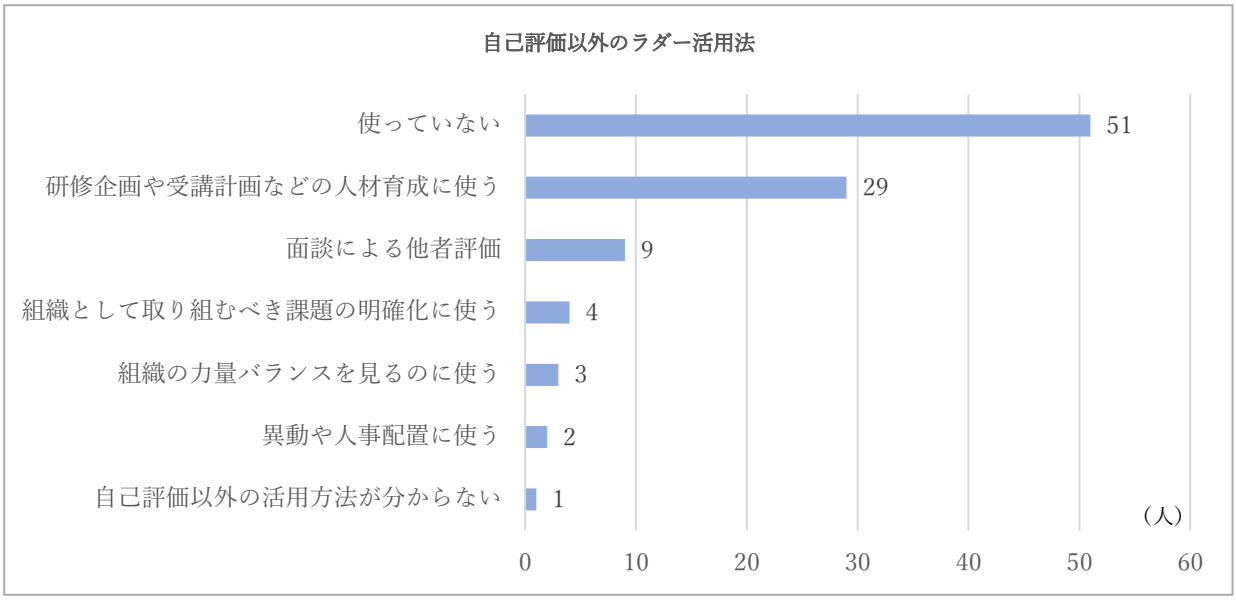
4）ラダーを活用するうえで困ったこと

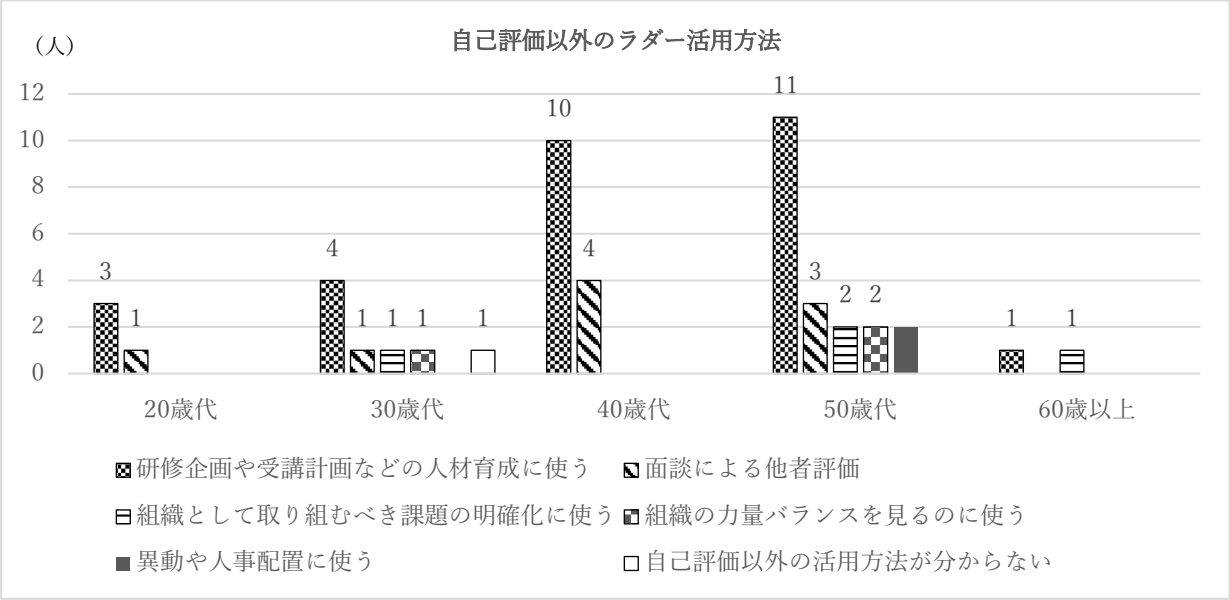
この設問は自由回答であったため、回答を 9 つのカテゴリーに分類し集計した。
「判断に困る」が最も多く 49 人(40.0%)、次いで「所属で経験できない業務がある」が 18 人(14.6%)、「項目の意味がわからない」が 17 人（13.8%)、「評価・運営も体制づくりが難しい」が 15 人(12.2%)であった。



5）自己評価以外のラダー活用法

この設問は自由回答であったため、回答を 6 つのカテゴリーに分類し集計した。
「使っていない」が 51 人（51.5%）と約半数であった。しかし、約半数（48 人、48.4%）は研修企画や研修受講計画などの人材育成、ジョブローテーションに活用していた。
　自己評価に止まらず、組織運営や他者評価に活用していると回答した人の 64.0%は、40 代以上であった。





Ⅲ 考察

1. 新型コロナウイルス感染症が保健師活動に及ぼした影響について

問１の回答により、県内保健師の大部分が影響を被っていることが分かった。事業における感染予防対策の実施のみならず、多くの業務の中止・延期等を余儀なくされ、家庭訪問や地域住民への働きかけもしにくくなった。

このような中で、問２の保健活動の内容が変わったことに対する住民からの声の結果を見ると、51.1%が「無かった」、「わからない」と回答している。住民サイドも未曽有の出来事に訴えることもできなかったとも考えられるが、住民と接する機会や時間が減り、住民の声が届かなくなった、聞けなくなったとも考えられる。

問３の保健活動のやり方が変化したことで危惧していることがあるかという設問では、全体の半数が危惧していると回答し、わからないと回答している者も 33.3%と多かった。保健活動のやり方を変化させたが、当初目的としていた効果を生まない、生むかどうかわからないと考えている者が多いこ

とをうかがわせる状況だった。

危惧の内容では、ケース介入等の支援や住民への情報提供、地域の交流等が充分できないことを 145 人（74.36%）が危惧している。対面活動が十分できないという制限の中での活動が、充分な効果を上げないのではないかと心配している状況が良くわかる回答内容であった。

年齢別でみると、特に若い 20 代の保健師の半数が「わからない」と回答しており、年齢が上がるにつれ「わからない」の回答が減り、「危惧する」人の割合が増える。このことは、年齢が上がるにつれ、支援する対象の特徴と現状の支援方法や効果の具体的な想定ができるようになるためではないかと推測する。

問 4 は、保健所は報道等でも感染症業務がひっ迫していると言われているので、その影響について調べたものだが、案外、保健所は従来通りに機能しているという回答が多かった。しかし、その自由回答内容を見てみると、市町では保健所との接点が少ないために影響がないという意見があり、保健所と市町の業務分担が進み影響が限定的になっていることも一因と考えられる。一方で感染症以外の精神保健業務や難病等の保健所業務の停滞や機関調整や管内会議・研修等の中止や延期を指摘するものも多く、ケースワークを一緒に行ったり、指導を受けたり、会議による管内の情報交換ができなくなっている現状を示していると考えられた。

問 5 の今後必要と思われる知識・技術には、感染予防の知識技術、健康危機管理の対応力が上位を占めた。一方で、コロナ禍における対人支援や地域支援の技術等が必要と回答しているものも多い。その支援技術には、リモート・オンライン等の IT 技術も関係すると推測され、対面が制限される中での支援技術を習得したいという思いが読み取れる。しかし、現在はその支援技術の前例が無く誰にも教えてもらえない状況なので、医療保健分野だけでなく他分野の知識技術も含め、広くアイデアを求めることが必要かもしれない。

問 6 の良い方向に変化した取り組みについては、「わからない」が半数を占める。問 3 の保健活動のやり方が変化したことで危惧していることがあるかという設問においても「わからない」という回答が 33%と多かったように、取組の変化が良いのか悪いのかが判断つかないということではないかと推測される。しかし、一方で「良かった」と明確に回答している人が 33.3%いた。良かった内容を見てみると、事業の見直しができたことやオンライン相談・指導ができたこと、オンラインによる会議や研修による移動時間の短縮ができたことを挙げている人が多かった。通常ではなかなか取り組めないことに、コロナ禍をきっかけに取り組み、その効果を実感した人が回答しているように感じた。

２．自治体保健師キャリアラダーの活用について

県内の保健師のキャリアラダーの認知度、チェックの経験割合はともに 90%を超えて高かった。しかし、1 割程度の保健師がまだラダーをチェックしていないことがわかった。保健師の質の向上と個々の保健師のキャリアアップにはラダーのチェックが必須と考えられるので、ラダーをチェックしていない理由への対策を考え、丁寧につぶしていくことが今後は必要と考える。

ラダーをチェックした後の上司の面談はまだ 36%の保健師が受けられていなかったことは残念であった。上司面談の効果は、自己評価と他者評価のすり合わせにより、自分を客観視できるようになることや、どうしたら目標に近づくのかについてアドバイスを得るところにあると考える。ラダーの効果を最大限に生かすために、ぜひ上司面談を実施してほしい。

ラダーをチェックして良かったと感じた人は 260 人（74.7%）あり、大部分の人が良かったと感じている。その理由として 50.1%が「自分の能力の過不足が分かり、客観視できた」、42.9%が「達成すべき目標が明確になった」を挙げていた。キャリアラダーがあることで、どのような能力を持つ保健師を目指すのかが明確になり、それに向かって自己研鑽ができるので良かったと感じているのではないかと推測する。

一方で、ラダーを活用する上で困ったことは、40%の人がチェック項目の「判断に困る」、次いで 14.6%の人が「所属で経験できない業務がある」を挙げている。誰もが使いやすいキャリアラダーとするためには、困った点への対策が必要だが、どう判断するのかの解釈を丁寧にマニュアルに記載する又はチェック項目の表現をわかりやすくする等の改良を行う等の対策が必要と考える。この解釈を組織で丁寧に話し合う過程こそを、保健師活動のコアを考え理解する重要な場面としたいところである。

さらに、上司面談によってラダーのチェック方法についてのアドバイスもできる。面談をしっかりしていくということも一つの対策になるが、指導者側に力量差があるという意見も、課題として認識しておく必要があるだろう。

自己評価以外のラダーの活用法については、組織としての力量バランスを見たり、ジョブローテーションや人材育成に活用したりするなどの活用方法が挙がっていた。自己評価に止まらず組織的に利用していることが多々あることがわかった。組織的に利用する場合は、後で問題とならないように組織としてラダーを活用することや匿名にする等の活用のルールを所属保健師に事前に周知しておく必要があるだろう。年齢別にみると、マネージャークラスの 50 代の保健師が組織的な利用を行っているケースが多いことがうかがえた。

３．まとめ

新型コロナウイルス感染症に関するアンケート全体を通じて、コロナウイルス感染症によって事業を中止したり延期したりする中で、感染を避けるために今迄の手法を変えながらなんとか活動を進めようとしている姿が浮かび上がった。しかし、問 3 の保健活動のやり方が変化したことで危惧していることや問 6 の良い方向に変化した取り組みにおいて、「わからない」と回答している人も多く、事業の手法を変えたが、その効果について確信を持てていないようであった。新しい手法についてはまだまだ進化途中であると考えられるので、従来のやり方と比較して良い点悪い点を明確にし、確信が持てるまで工夫をすることが必要だろう。

キャリアラダーに関するアンケート全体を通じて、ラダーの認知度が上がり、効果も実感できるようになったが、上司面談の未実施やチェック項目の判断に困る例など運用面での充実が必要な段階にきていることがわかった。各所属において、運用面の充実を図るよう努力していただきたい。

今回のアンケートでは、コロナ禍の中において多くの保健師に回答をいただいた。特に県の保健師は、感染症予防の最前線で忙しい中で回答していただいたことに感謝する。そのおかげで、県内の保健師の状況が俯瞰できるようになった。この現状を踏まえ、滋賀県看護協会保健師職能委員会において、少しでも保健師が働きやすくなるよう努力したいと思う。

滋賀県看護協会保健師職能委員会調査研究報告書

調査票

★ 令和2年度　保健師職能委員会アンケート ★

皆さんこんにちは。保健師職能委員会です。だんだん寒さが身に染みるようになってきましたね。コロナ禍の中、感染予防に努めながらお仕事に頑張っていらっしゃることと思います。

今年の職能委員会は、新しい生活様式の中での保健師活動や、保健師の力量形成に役立つキャリアラダーについて調査を行い、皆さんと情報共有して今後の保健師活動を考えていきたいと思います。以下のアンケートに答えて、あなたの声を聞かせてください。

1　アンケート期間　令和2年11月9日～11月20日（金）
2　対　　象　滋賀県下で働く保健師（会員の有無を問いません。）
3　回　　収　支部の職能委員の指示に従ってください。
4　結　果　報　告　職能委員会だより2月号（予定）の中で報告します。

＊＊

【基本項目】　該当項目に〇をつけてください。

1. 所属　　病院 ・ 学校 ・ 県 ・ 市町 ・ 訪看 ・ 施設 ・ 企業 ・ 医院
　　・ その他（　　）
2. 年代　　20歳代 ・ 30歳代 ・ 40歳代 ・ 50歳代 ・ 60歳代以上
3. 保健師経験年数　　なし ・ ～5年 ・ 6～10年 ・ 11～20年 ・ 21年～
4. 看護協会の会員　　会員 ・ 非会員
5. 支部区分　　1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 県外

【新型コロナウイルス感染症について】　該当項目に〇をつけ、□内に具体的に記入してください。

1. 新型コロナウイルス感染症により、保健師活動に何らかの影響を受けていますか。

　①はい　②いいえ　③わからない

1－2) ①と答えられた方にお聞きします。それはどのような内容ですか。

2. 保健活動の内容が変わったことによる、住民からの声はありますか。

①はい　②いいえ　③わからない

2－2) ①と答えられた方にお聞きします。それはどのような内容ですか。

3. 保健活動のやり方が変化したことで、危惧していることはありますか。

①はい　②いいえ　③わからない

3－2) ①と答えられた方にお聞きします。それはどのような内容ですか。

4. コロナ対応で保健所業務が逼迫している状況ですが、何か住民や市町支援に影響はありますか。
もしくは今後予測される影響はありますか。

5. With コロナの保健師活動のために、どんな知識や技術を身につける必要があると思いますか。

4. 感染対策をとりながら新たな支援方法を模索中だと思いますが、そのなかでも良い方向に変化した取り組みはりますか。

①はい　②いいえ　③わからない

5－2）①と答えられた方にお聞きします。それはどのような内容ですか。

【キャリアラダーについて】　該当項目に○をつけ、□内に具体的に記入してください。

1. キャリアラダーを知っていますか。

①はい　②いいえ

2. 自分のキャリアラダーをチェックしたことがありますか。

①はい　②いいえ

1－2）②と答えられた方にお聞きします。チェックしていない理由は何ですか。

3. ラダーをチェックしたあと、上司との面談はありますか。

①はい　②いいえ

4. キャリアラダーをチェックしてみて良かったことはありますか。

①はい　②いいえ

4－2）①と答えられた方にお聞きします。それはどのような内容ですか。

5. キャリアラダーをと活用するうえで困ったことはありますか。

①はい　②いいえ

5－2）①と答えられた方にお聞きします。それはどのような内容ですか。

6. 自己評価を行う以外に、ラダーをどのように活用していますか。

ご協力ありがとうございました。